

詩文集を讀もう!

働くものの文学活動を発展させるために!

かねてお約束致しておりましたように、「みいけ二十年の詩文集」やがてくる日に、三池大震災七年忌記念行事の一として、発行することができました。菊判の雑誌型のもので百二十ページ。表紙は明るいブルーの、「安保とみいけ」の合言葉で飾った三池闘争の盛況、全園から十万人労働者が、闘いの誓い——ホッパに集まって開いた「総評九州拠点大集會」の壮大な写真です。きつと表紙を見ていただければ、なつかしく三池の闘いを思い起していただけることを信じます。

七〇年闘争の展望たしかめ

第二期は、いわずと知れた、全園の労働者との連帯にこそ見えられながら、安保と三池で闘ったときの昂揚。

第三期は、昭和三十八年のあつた大震災にちなんで、資本金の大増強に對し、働く者の怒りをぶつけた時期。

第四期は、命を守る闘いを強めながら、七〇年闘争をめざす現在の段階。

三池のこの文学的創造活動の歩みは、もちろんそこに幼さを残しながらも、時や歌などをつくり、創作をすすめていく仲間の手がかりの期待にこたえ得たと信じています。

発展めざし歩いた道が……

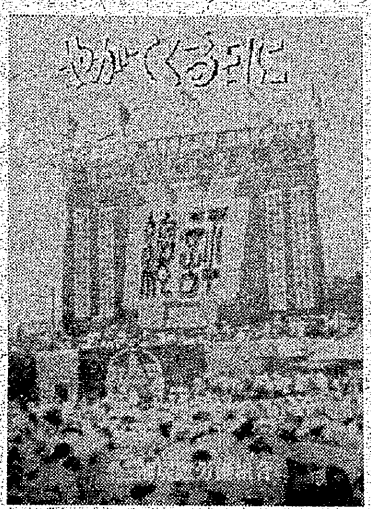
三池における文学的創造活動(詩)は、ほぼ四〇の時期にそれだけの昂揚を示しています。第一期が昭和二十七年(一九五二年)にわたって闘われた「企業整理反対闘争」(実質は大連首切り反対)を契機に、三池の私たちがようやく労働者としての生き方、闘いへの確信を獲得した時期で、それは文学的夜明けの時期でもありました。

ご希望あれば直ちに発送

内容は、あらゆるジャンルにわたって多面的です。詩が五十三篇、短歌百三十九首、俳句九十七句、川柳二十九句。さらに創作五篇、随筆四篇です。

組合員・家族の皆さん、本紙の購読者を守る会員の皆さん、ぜひ一人でも多くの仲間がこの詩集が読まれるように協力下さい。二百円カンパしていただければ、この詩集をお送り致します。

詩文集の表紙



短歌

七年忌を迎えて

四山 堀前はるを

亡き友の霊に捧げし花束を炭掘る仲間手に手にかかげん
次々に手向けし菊の盛りゆけく亡き友の霊いと惜しみつつ
壇上の手向けに菊の陽の降り注ぎげんまはゆきほど
七年の供養の鐘の秋空に響きてももれぬ鳴く
亡き友の霊に捧げし燭の灯の秋風に揺れてやをら狂へり
殉死者の墓にぬかずきて炭を掘る仲間も菊を手向けん
殉死者の霊にぬかずく友の妻の背の子も持てる手向けに菊を
亡き友の霊に捧げし若者の歌声空へ響きて続く
悼辞読む仲間妻の声うるみ小さく震へ響きて揺る
菊香る秋空の下団結の拍手たかまり果てしなく広がる。



思い出

松原中三年 宮崎弘

表の通りに、チツチャな男の子
そう、四つ位かな
どこかで見たような子
そうだ、職員さんこの子だ
よくみると、その子の胸に
ホコラシげに、ついている
三池主婦会のバッジ
お母さんが、いつもつけてる
同じバッジが、ここにもある
この子は、どこから、みつけて来たのか
おそらく、分裂前の
このバッジを、親達は
ソーツとどこかに

随筆 診断書

縫製工場 平野ミヤ子

入院した私の病名は、胆のう症、肝臓、貧血、高コレステロール血症といろいろ。入院して早や一月になり、一月間の休業の診断書が出た。

縫製工場は、働く者の一人一人の顔が、一日となく忘れられないほど、脳裏に想い出され、私も病魔に倒れて一番悲しむものは大切な人だ。

私には、今度こそ十分療養して、自分の身体は自分で守る以外に道はないことを自覚すべきたと、会社のことなど一切忘れて自分自身のために生きなければ、自分以外誰か守ってはくれないのだ。

すべてを忘れて生きるために、病魔に倒れて一番悲しむものは大切な人だ。

詩篇三つ

職場新聞「いのち」から

亡き友を偲び
中央 佐藤 勉
今は亡き友よ
真実を伝える人と信じればこそ得しもの大きかりしを
あの思わしきガス爆発さえなかつたら
君と共に赤旗の下で手をとりあつて
組合の前進のため 力と努力を重ねたものを
智慧と勇気を与えたものを
君の好みの写真の道も、少しは理解し合えただろうに。
ささやかな妻の内面の材料取りに行くと、
君と会える唯一の楽しい日だった。
無口だった君の、内面にひめた人間愛と
同志愛に、改めて、改めて、君の死を悼む。
ガス爆発さえなかつたら、
飽くなき三井独占の、鉄の面皮を知れぬものを、
彼は法の名の下に「民主政治」の名の下に、
かくれてしまった、壁の中、
けれども君を失った、現実だけは真実だ
心から君の冥福を祈ろう。
目の前に真黒い煙の、流れがあ

生と死

万訓 HK生

大爆発があったのに
幸い俺は助かった
夢遊病者のようになり
思い出せぬ、その時のこと
(目の前) 妻の顔、夢かと
頬をつねったら、痛々しく
矢張り俺は、生きています。
地獄のような坑内で
親しい奴は、みな逝った
幸い俺は助かった
苦しめられた病院の
ベッドで仲間と、闘いながら
矢張り俺は、生きています。

記憶

M生

目の前に真黒い煙の、流れがあ